

いじめ問題解決に向けた各校の取組の報告

(学校名 藤岡市立美九里東小学校)

1 いじめ問題解決に向けた私たちの取組名

『笑顔、やる気、自信いっぱいの学校づくり』

～「あい」あいさつ 「う」歌声 「え」笑顔 「お」おもいやり いっぱい運動を通して～

2 「いじめ撲滅宣言」とのかかわり

人権教育で目指す子ども像

低学年・自分の考えを持ち、友達との共通点や相違点を見つけながら、伝え合い、認め合って、自分の考えを広げ深めることのできる児童

- ・自分や友達のよさを知り、協力のできる児童

中学年・自分の考えを持ち、友達に工夫して伝えるとともに、友達の考えを知り、認め合い、自分の考えを広げることのできる児童

- ・友達を思いやり、仲良く助け合える児童

高学年・自分の考えを持ち、友達に伝えるとともに、友達の考えを知り、認めることのできる児童

- ・ルールを守り、誰とでも仲良く遊べる児童

いじめは、児童の自己に対する不安感が、他者への排他的・攻撃的な行動として表出したものと考えられる。したがってその不安を取り除くことが、「いじめ撲滅」に有効であると言える。そのためには児童の自主性を育て、安定した生活の中で自己肯定感をもたせ、他者への思いやりの心を育てることが重要である。

そこで、本校では「あいうえおいっぱい運動」をテーマに、責任ある役割や自分たちにできることを考え実行させることで、達成感を味わわせ、自己有用感を感じさせた。このような取組のもと、互いに信頼し合い助け合える関係を築くことにより、いじめのない「笑顔、やる気、自信いっぱいの学校づくり」を実践できると考えた。

いじめ撲滅宣言・行動目標

「よく考える子」をいっぱいにするために私たちは…

- ・相手の話をよく聞きます。
- ・意見をたくさん言います。
- ・わかるまであきらめません。

「思いやりのある子」をいっぱいにするために私たちは…

- ・優しい言葉で話します
- ・自分から先にします。
- ・相手の話をよく聞きます。

「じょうぶな子」をいっぱいにするために私たちは…

- ・いっぱい笑います。
- ・目標を立てて挑戦します。
- ・みんなで遊びます。

**私たちは いじめをしない させない 許さない
「笑顔、やる気、自信いっぱいの学校づくり」を目指します。**

「あいうえお」いっぱい運動を通して、みんなが「楽しい」と思える学校を！

3 共通の取組

○HAPPYはあとふるツリー運動

後期人権集中学習旬間にあわせて「HAPPYはあとふるツリー運動」を実施した。友達にしてもらってうれしかったことや友達の良いところを葉の形のカードに記入し、木の掲示物に貼り付けていった。低学年の児童に限らず、高学年でも自分から進んでカードに記入し、たくさん貼り付けることができた。自分のことが書かれているカードを見つけて嬉しそうにしている児童をたくさん見ることができた。また、給食の時間に、児童会の児童がカードを読み上げる活動も行った。放送の中で自分のことが読まれると、書いた児童も書かれた児童も嬉しそうな表情を浮かべていた。共感的人間関係が築けていた。



○あいさつ運動

「あいさつ運動」を登校班ごとの当番制にして全校児童で取り組んだ。全校児童でのあいさつ運動をしたことで、あいさつを向上させようという雰囲気を全校で醸成することができた。また、学級活動では、クラスではどんなあいさつに取り組んでいくと良いのかについて考え、話し合いを行った。自分たちのあいさつについて振り返る場を設けたことで、お互いが気持ちよくなるようなあいさつを目指して目標を立てている学級もあった。



4 本校の取組

○人権集中学習旬間の取組

本校では、前期・後期の年2回、人権集中学習を実施している。今年度の前期人権集中学習では、「あいさつで笑顔の輪をつなげよう」をテーマとして実施した。どんなあいさつをしたら、笑顔になれるのかを個人、クラスで考え、行動することを行った。



後期人権集中学習では、「優しさで笑顔の輪を広げよう」をテーマとして実施した。後期人権集中学習旬間のオープニング集会では、児童会から「人権とは、笑顔で楽しく生活する権利である」という確認をした後、本校で中心となる取り組む五つの取組についての提案があった。「①全校あいさつ運動」「②あいさつリレー」「③わたしの人権宣言の木」「④ハッピーはあとふるツリー」「⑤学級会での話し合い」である。本校では、『気持ちのよいあいさつは、思いやりの第一歩』と捉え、子どもたちは毎朝のあいさつリレーを楽しく取り組んでいた。児童の振り返りや感想は、「クラスでは『ありがとう』や『手伝うよ』などのプラス言葉が増え、『やだー』などのマイナス言葉減ってきたので0を目指して頑張りたい」と書かれていた。

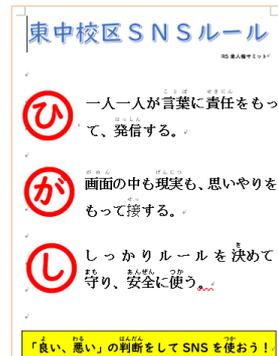


「わたしの人権宣言の木」は、本物のメタセコイアの木を使用し職員玄関に設置した。全校児童が自分にできる人権週間の目標を決め、カードに記入して木につるした。他の児童の目にとまりやすい職員玄関に置いたので、他の児童のカードも見ることができた。また、教員の目にもとまる場所なので、目標を見て、個別に励ましの声などをかけることもできた。



○小・中・地域の方々と連携した取組

11月16日（火）、藤岡第一小学校において「東人権サミット」を開催した。東連携型小中一貫校の4つの学校の児童会・生徒会の本部役員等が集まり、今年度のテーマである「SNSの上手な使い方を考えよう」をもとにSNSについての課題・改善策を出し、SNSを使う際の注意点について話し合った。中学生が中心となり話し合いを進めてくれ、小学生も意見が言いやすそうだった。この日に決定したスローガン「①一人一人が言葉に責任をもって、発信する ②画面の中も現実も、思いやりをもって接する ③しっかりルールを決めて守り、安全に使う」を決め、各学校で啓発した。



○たてわり活動

本校では、日常的に異学年間の交流を図るため、高学年が計画した遊びを1年生から6年生までの縦割り班のメンバーで行うという「たてわり班活動」を、1カ月に一度のペースで実施している。20分程度の短い時間だが、どの班も毎回楽しんで交流している。



高学年の児童が低学年の児童に気を配り、声をかけたり面倒をみたりする姿があちこちで見られた。低学年の児童は、高学年の児童に手助けしてもらったり優しくしてもらったりして、楽しく活動を行うことができた。6年生は活動毎にめあてを持ち、活動計画を立てていた。「低学年の子の名前を必ず覚えて、名前で呼ぶ」といった人権感覚にあふれためあてを立てている班がいくつもあった。ふりかえりでは、高学年を中心に反省会を行い、次回にやりたい遊びを低学年から聞き出し、次回も楽しませようとしていた。

5 取組のまとめ

(1) 取組の成果

- 人権集中学習を中心に「あいさつ」や「思いやり」いっぱいの活動を意図的に行ったことにより、自分に自信を持ち、他者を思いやれる児童が増えた。
- 普段の休み時間から、異学年同士でドッジボールや鬼ごっこをしていることが多いが、たてわり集会を実施したことで、より一層異学年同士のつながりが強まった。特に、6年生が1年生と遊んだり、会ったときには声をかけたりするなどの思いやりにあふれる行動が見られるようになった。

(2) 今後の課題

○美九里東小の児童は小さい頃から一つの学級内で過ごしてきていることから、同学年の児童には相手の気持ちを考えずに思ったことをすぐに言葉に発してしまう傾向がある。相手を傷つける言動はいじめであることに気付かせるとともに、「親しき中にも礼儀あり」や「相手にこの言葉を言われたらどう思うか」について普段から意識させ、互いが気持ちよく生活するためにどのような言葉を発していったらよいか、どのように行動していったらよいか、考えさせる必要がある。いじめ防止の意識向上をめざし、小さなことから一つ一つできるようにするため、これらの指導をあらゆる場面で日常的に行うことが求められる。

いじめ問題解決に向けた年間の取組

藤岡市立 美九里東小 学校

月	学校の取組	中学校区での取組
4月	・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	・年度始め総会にて、EAST子育てアクションプランを活用しての家庭への啓発
5月	・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	
6月	・人権学習週間 ・「人権宣言の木」 ・あいさつ運動 ・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	・東中校区地域でふれあうあいさつ運動
7月	・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	
8月	・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	
9月	・藤岡多野いじめ防止フォーラムへの参加(藤岡工業高校) ・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	
10月	・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査) ・SOSの受け止め方に関する授業の実施	
11月	・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	・いじめ問題解決に向けた教育懇談会 ・懇談会ま内容を学校通信を通じて家庭。地域の啓発 ・東人権サミット
12月	・人権学習週間 ・あいさつ運動 ・ハッピーはあとふるツリー運動 ・「人権宣言の木」 ・いじめに関する道徳の授業実施 ・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	・東中校区地域でふれあうあいさつ運動
1月	・いじめ問題解決に向けた子ども会議参加 ・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	
2月	・全校集会にて子ども会議の内容伝達 ・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	
3月	・生活アンケート(いじめ・悩みごと実態調査)	

